

小高い盛り場

ー 水田地帯における丘的拠点の提案ー

Keywords

農村 農家 コミュニティ 高齢者
水害 集落間 水田



DZ22645 杉山 廉

1. はじめに

農村の多くは車社会であり、地方では公共交通機関が不足しているところも多い。こういったところでは、地域の拠点が少なく、独りでの行動圏が狭い高齢者は生活しづらい。

また、高齢化した集落では、災害のリスクも高い。特に水田地帯は近くに河川や池があるなど水が豊富であるため、水害のリスクも大きくなる。

2. 研究背景

研究にあたり、茨城県結城郡八千代町在住の稲作農家である祖父母にインタビューを行った。

2.1 車社会における高齢者の生活

公共交通機関が不足しているうえに近隣に住む若者も少ないため、自力でスーパー等へ買い物に行くことは難しく移動販売に頼っている。拠点がないため、趣味の集まりなどもない。

2.2 農村地域のコミュニティの現状

集落間の交流はほとんど行なわれておらず、集落内の交流も集落の密度の低下に伴いほとんど行われていない。また、農家の減少に伴い農家同士の交流も減少し、コミュニティと呼べるほどの規模のものはなくなりつつある。

企業所属の外国人就労者こそ増えてはいるが、日本人の若い農家は少なく、外国人に苦手意識がある高齢な農家には技術や知識を継承する先がない。また、若い農家との関りが無いままでは高齢な農家は現在発展しているスマート農業等の新しい農業への向き合い方についていくことができないため、知識・技術を継承する場に加え、情報の収集・発信を行える農業的拠点が必要であると考ええる。

2.3 外国人就労者

企業と3～5年契約の住み込みで働く場合やアルバイトとして繁忙期に働く場合がある。しかし、住居が不足しており、プレハブで暮らしている場合もある。

2.4 水田地帯の避難場所

鬼怒川沿いの地域には、洪水時に倒壊が予想される家屋が並んでおり水害時の被害が大きくなりことが予想されている。災害時の避難所は小学校や公園、広場に設定されているが、この地域一帯は平地であるため、いずれも水害時に利用することはできない。

また、水害が起こり田畑への被害が出ると2年間農業を行うことはできず、その間農家は職を失った状態になる。こういった際にも集落間のコミュニティが築かれていれば助け合うことができると考える。

3. 研究目的

本研究では、以下の要素を満たした複合施設を設け、農村地域における集落間のコミュニティ形成の場を提案することを目的とする。

- ① 農業の情報拠点
- ② 地域の団らんの場
- ③ 外国人就労者の住居
- ④ 洪水時の避難場所

4. 対象敷地

4.1 敷地概要

対象地は、茨城県結城郡八千代町の東部とする。

関東平野にあり、筑波山周辺を除くあたり一帯が平地の水田地帯である。時期によって景色がうつろいゆく場所である。一方で、鬼怒川に面しており水害のリスクが高い地域でもある。

4.2 敷地分析

対象地域は農業地域であるため町の中心地から離れており公共交通機関もないため、車社会である当地域では高齢者の自力での生活が困難である。近くには公共施設やスーパーもないため拠点となる場所がない。

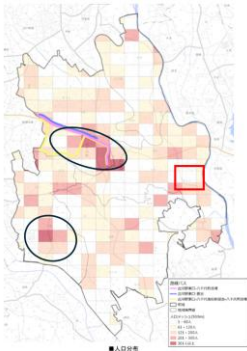


図1 八千代町の人口分布と公共交通機関

水害面においては、鬼怒川氾濫時の予想浸水レベルが3～5mとなっているうえに近辺には家屋倒壊等氾濫想定区域があり大きな被害が想定される。また、平地で浸水が想定される地域の住宅地は微高地になっていることが多いが、この地域は他の地域と比べ、より住宅地と田畑のレベル差が小さいため、避難所の必要性がより高い地域となっている。

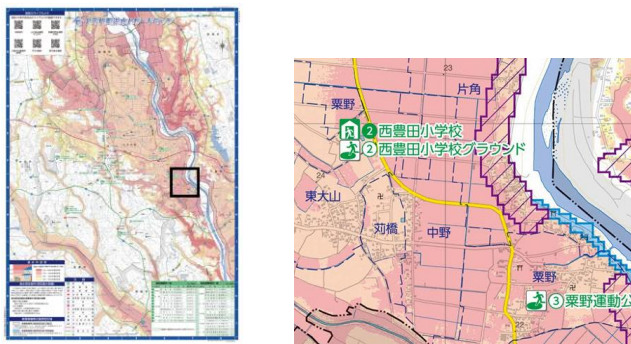


図2 八千代町ハザードマップと対象敷地の拡大図

5. プログラム・手法

5.1 プログラム

計画用途：農業技術センター、コミュニティセンター
集合住宅

5.2 手法

1) コミュニティ空間として利用されるには

下記のような多様な空間と農業技術センター空間との距離を近くし、機能を織り交ぜる。

- ① 農作業中の休憩所として利用できる
 - ② 図書空間などを設け子どもも利用できる
 - ③ 食堂やキッチンスペースを設け主婦層も取り込む
- また、集落の端に敷地を設定することで他の集落の人でも利用しやすいようにする。

2) 水害対策

主に家屋倒壊等氾濫想定区域の住民が前もって移動しておく避難所として利用できるようにする。敷地を区域

から川裏側の微高地に設定することで、用水路が氾濫した際の逃げ道を確保されるようにする。

また、他の集落の人でも利用する施設をつくることで集落間のコミュニティを形成し、被災後の助け合いを促す。



図3 用水路氾濫時想定浸水区域と敷地周辺の集落

2FLまたはRFLを予想浸水レベルよりも高くし、鬼怒川氾濫の際に登ることで避難できるようにする。登る途中にキッチンスペースなどを設け、コミュニティ空間としてや災害時にも利用できるようにする。



図4 予想浸水レベルより高いところへ登っていく様子

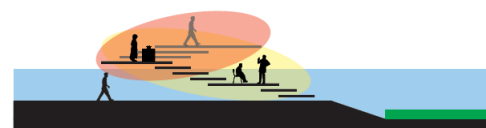


図5 キッチンスペースがコミュニティ空間と避難所空間を兼ねる様子

3) 八千代町特有の体験

八千代町は筑波山のみが出っ張って見える平地の水田地帯である。この地域の魅力は古くから神聖視されてきた筑波山の眺望と季節によって世界の色が変わったとすら思える豊かな景色、広く澄んだ空、動植物の移ろいを近くで感じることができる場所である。

参考文献

- 1) 八千代町HP
<https://www.town.ibaraki-yachiyo.lg.jp/page/page005283.html>
- 2) チバニアン兼農業学校
<https://chibanian.info/nochiyoso2024/>

